

「高松の埋蔵文化財講座 <sup>やしまのき</sup> 屋嶋城について」を開催しました

平成28年12月6日、高松市創造都市推進局文化財課の担当職員を迎え、「高松の埋蔵文化財講座 屋嶋城について」の講座を開催しました。

平成19年から高松市が進めてきた屋嶋城跡城門遺構整備作業が完了し、平成28年3月19日から公開されています。今回は、屋嶋城のあらしや、発掘調査等の成果についてお話をいただきました。

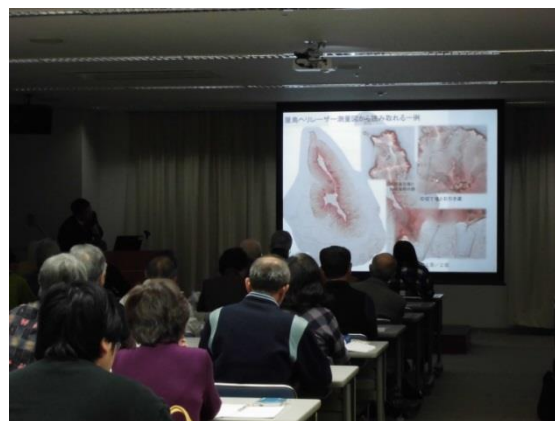


初めに、古代山城について、いつ、なぜ築城されたのかを解説していただきました。そして、古代山城の一つ、屋嶋城のお話です。屋嶋城は、中大兄皇子が唐と新羅の侵攻に備え、対馬、九州から瀬戸内海沿岸にかけて築かせた山城の一つで、667年に築かれたことが「日本書紀」に記されています。

屋嶋は名前のとおり、古代において島でした。屋嶋は瀬戸内海の中でも備讃瀬戸の東限に位置し、当時、畿内に抜ける海上ルートにおける要所で、特に、唐・新羅の大船団を迎え撃つには非常に重要な場所だったそうです。

屋嶋城跡の継続的な発掘調査は、平成11年度から始まり、以降14年間にわたって実施してきました。その発掘調査や修復の様子、出土品などを写真で紹介していただきました。

最近では、ヘリコプターによるレーザー計測で、より詳しい地形図調査もできるようになったそうです。



現地ではスマートフォンやタブレットを使って、最新技術によって蘇った屋嶋城をAR体感することができます。美しい瀬戸内海、屋嶋の名所と合わせて、古代ロマン溢れる屋嶋城跡へ訪れてみてはいかがでしょうか。